

2020年8月31日（月）日本記者クラブ

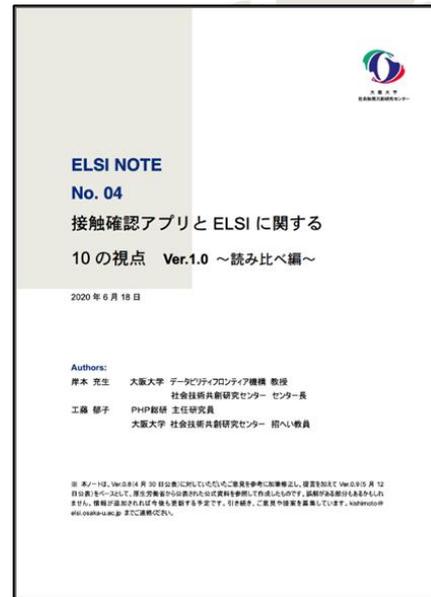
4/30
ver.0.8



5/12
ver.0.9



6/18
ver.1.0



「接触確認アプリ」

と ELSI (倫理的・法的・社会的課題)

エルシー Ethical, Legal and Social Issues

岸本充生 工藤郁子

(Kishimoto Atsuo) (Kudo Fumiko)



大阪大学 社会技術共創研究センター
Research Center on Ethical, Legal and Social Issues

Ethical, Legal and Social Issues

「接触確認アプリ（COCOA）」を、 “新規技術の社会実装”という観点から観察する

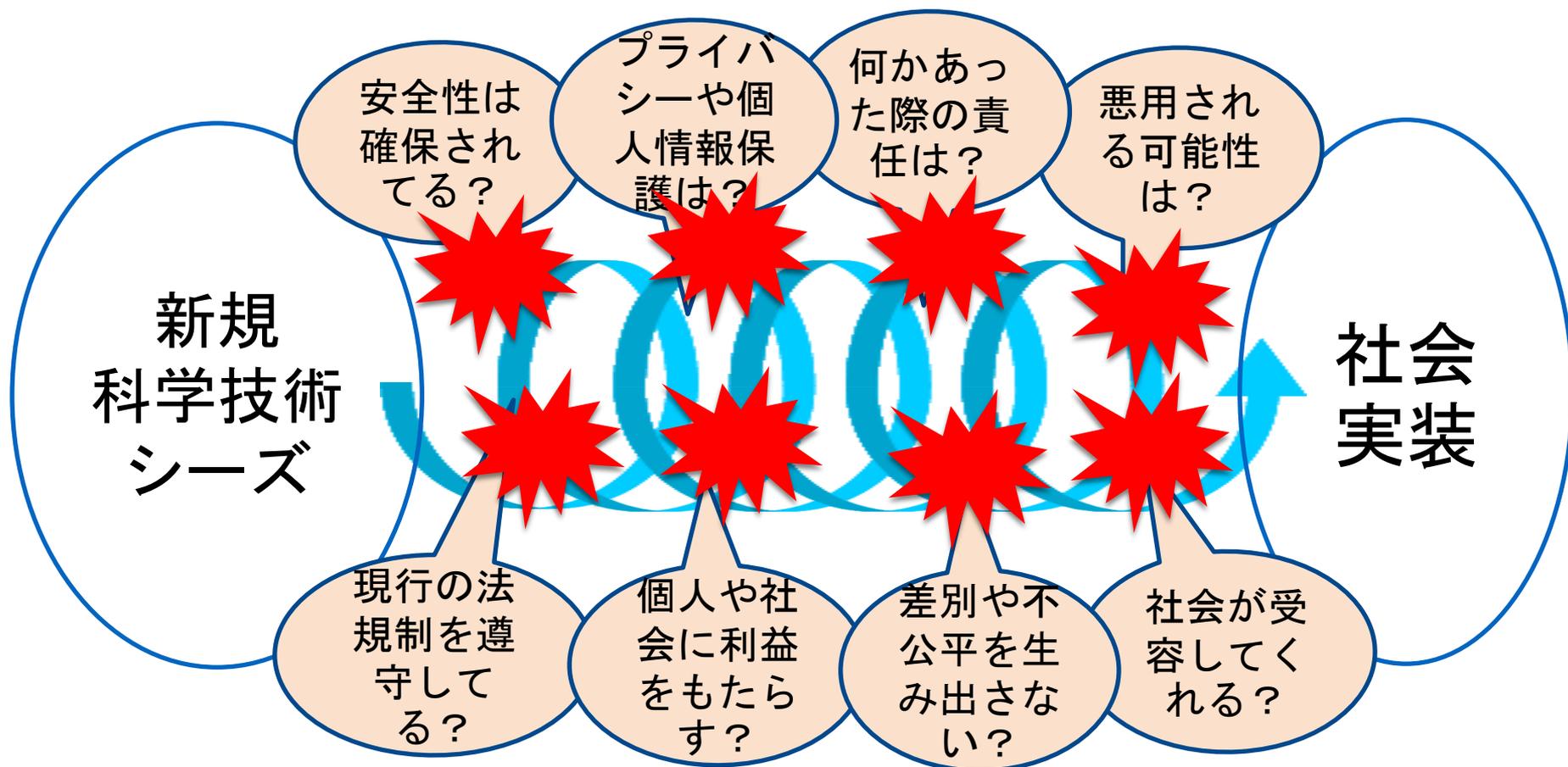
エマージングテクノロジー

- ・新しい技術のアイデア段階から実装段階までリアルタイムで観察できる良い機会である。
- ・これまでのELSI研究で得られた枠組みを当てはめてみたい。

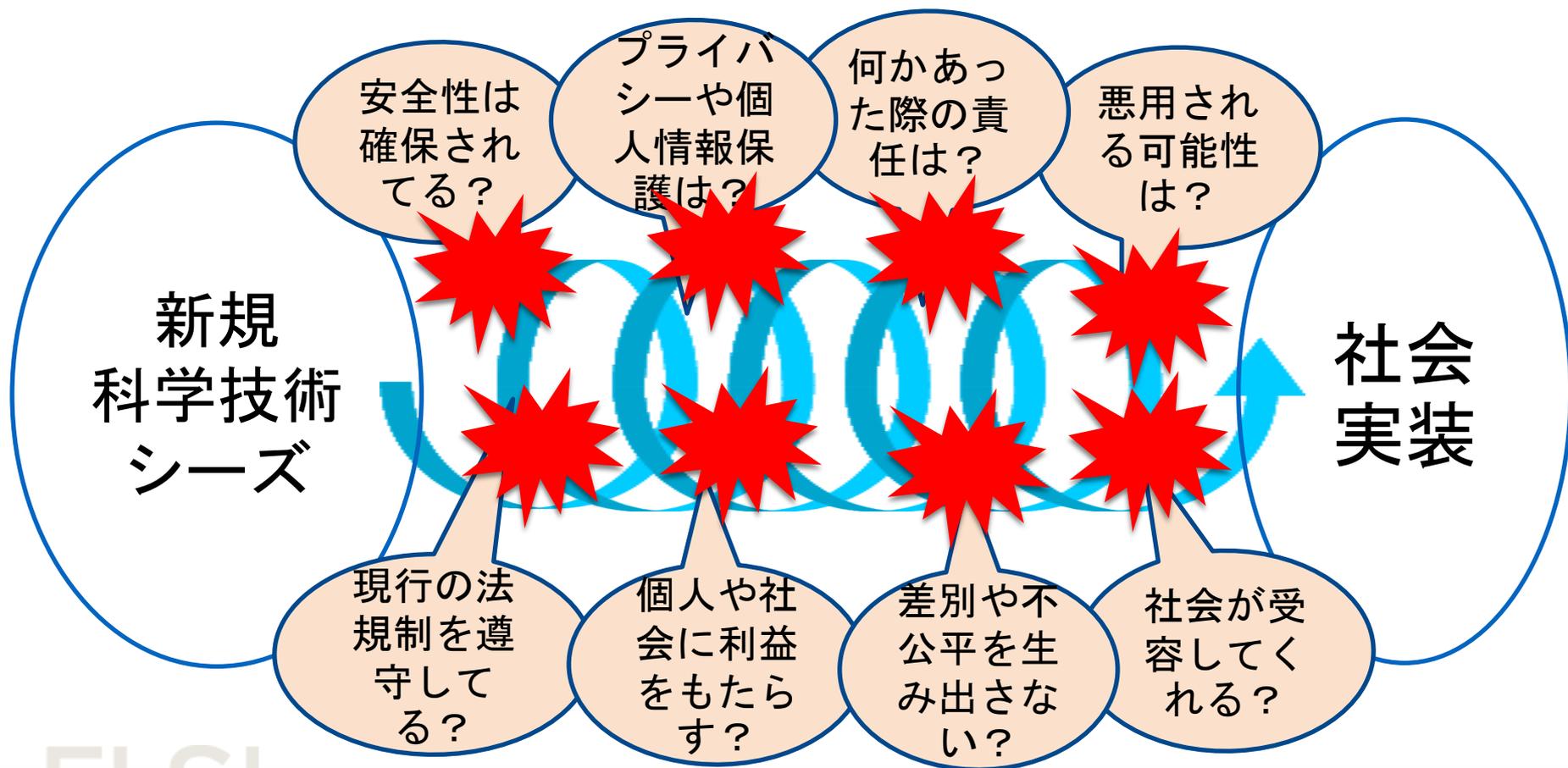
～技術単体で考えるのではなく、それを取り囲むシステム全体を考える視点が重要～

- ・このことを、上から目線での提言（〇〇すべき）でなく、自分が利用するかどうか考えるという「利用者目線」でのチェックリストとして構成してみよう。

新規科学技術を社会実装するには、
数々のハードルを乗り越えなければいけない。
しかし、過去、いろんなところでつまづいてきた。



これらの多くは、**ELSI（倫理的・法的・社会的課題）**であり、いわゆる「技術」だけでなく、「**社会技術**」によって克服される。



そもそもELSIってなに？



ethical, legal, and social issues/implications
倫理的・法的・社会的課題/含意

- 米国で1990年にスタートしたゲノム解析プロジェクトの中に「ELSI研究プログラム」が誕生（当時、Issuesではなく、Implications）
- 外部向け研究予算の3%（のちに「少なくとも5%」）がELSIに関する研究に割り当てられることになり、その後、複数のELSI研究拠点が設置。
- ELSIは、ナノテク、脳科学、コンピューターサイエンスなどにも拡大。
- 欧州ではELSA（Aはaspects）と呼ばれ、のちに「RRI: Responsible Research and Innovation（責任ある研究&イノベーション）」概念に発展。
- 日本では、主に生命科学分野の中で研究されてきたが、委員会のような形が多く、ELSIを対象とした研究プログラムや研究拠点は存在せず。
- 第5期科学技術基本計画で「倫理的・法制度的・社会的課題」として登場。

生命科学分野で30年前から使われ、また「技術以外のすべて」を指す言葉とされてきた概念を、あらゆる新規科学技術に適用する。

原点に立ち返りEとLとSに分けて考える。

E（倫理）・L（法）・S（社会）のすべてをクリアする必要がある。

法（L）

倫理（E）からの
不断の見直し。

倫理（E） 社会（S）

社会において人々が
依拠すべき規範。
短期的には安定的。
法（L）の基盤。

世論。変化し
やすく、不安
定。

カメラ (19世紀)



ドローン (2015年)



電動キックスケーター



事例



シャープペンシル



ノンアルコールビール

オンライン授業

大阪大学 社会技術共創研究センター

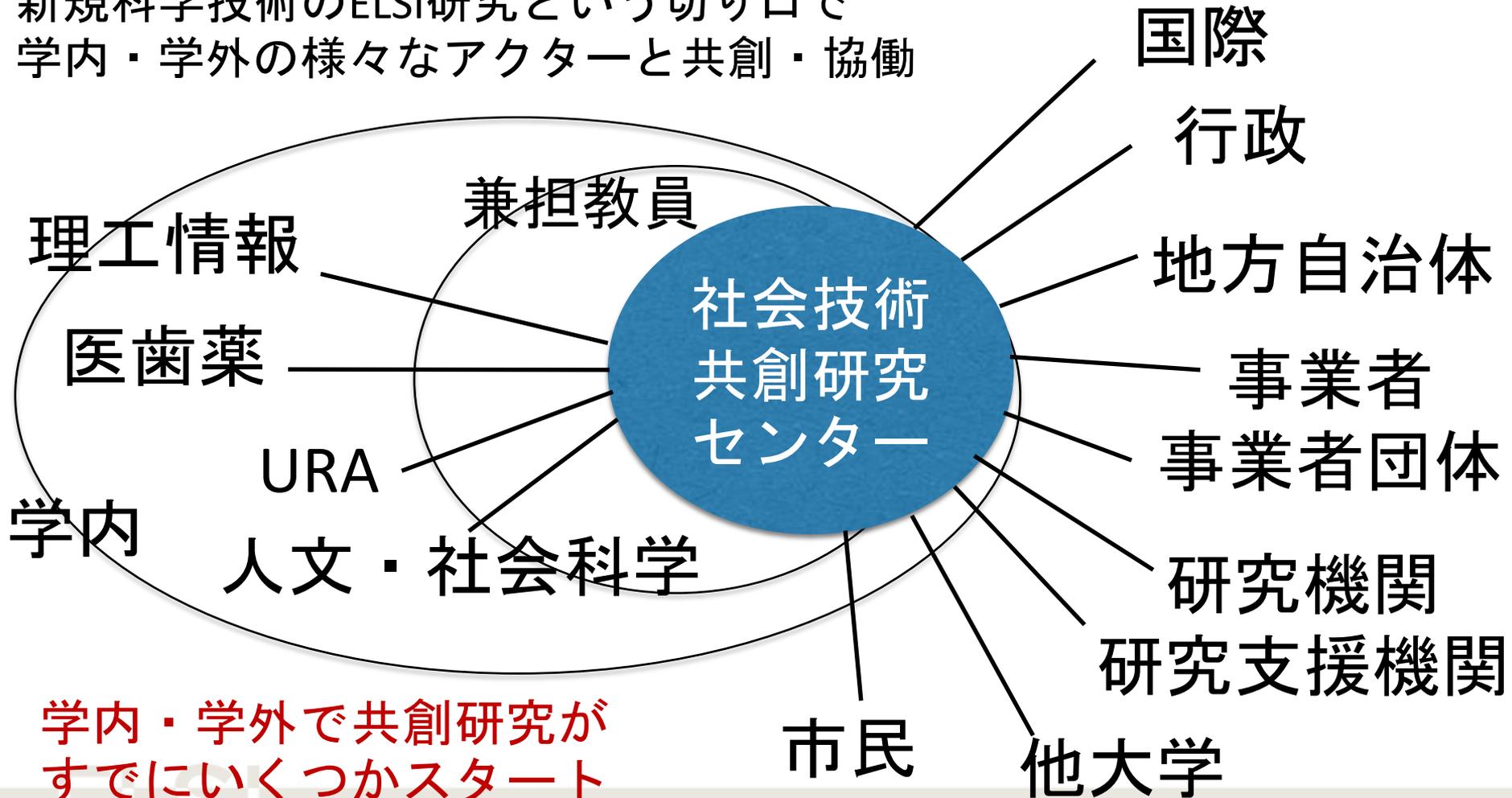
(通称 ELSIセンター) <https://elsi.osaka-u.ac.jp/>



大阪大学 社会技術共創研究センター
Research Center on Ethical, Legal and Social Issues

2020年4月発足

新規科学技術のELSI研究という切り口で
学内・学外の様々なアクターと共創・協働



学内・学外で共創研究が
すでにいくつかスタート